火災を出さないための「かきくけこ」　　名古屋市のＨＰより

か　「必ず」入れよう　灰皿に水

市内の火災原因のうち、たばこは第２位です。たばこの火は、本人が消したつもりでいても消えていないことがあります。確実に消火するために、必ず灰皿には水を入れておくように心がけましょう。また、ふとんやベッドの上ではたばこを吸わないようにしましょう。

き　「消」えてから　ストーブの給油

寒い冬、暖房器具として石油ストーブを使っている場合、つい火をつけたまま給油しようと思うことがあります。しかし、カートリッジタンクのキャップが適正に締め付けられていないことなどで灯油が漏れ、ストーブの火が引火し火災に発展する可能性があり大変危険です。ストーブの給油は、面倒でも必ず火が完全に消えたのを確認してから行いましょう。

く　「暮」らしの習慣　火の元点検

夜寝る前や外出する前などは、ガスの元栓、煙草の吸殻などの火の元点検を行う習慣をつけ、日ごろから火災の予防に努めましょう。

け　「経験」で離れたすきが　天ぷら火災

市内の住宅での火災原因で、例年上位にあがってくるものの一つに、天ぷら油による火災があります。天ぷら火災は、「電話がかかってきた時に、ちょっとのつもりが長電話」といった場合に起きています。天ぷら料理をしている時は、決してその場を離れないようにし、どうしても離れなくてはならない時は、必ず火を消すことを習慣にしましょう。

こ　「子供」の火遊び　親の責任

小さな子供の目から見れば、マッチやライターは格好の遊び道具です。「子供だけで留守番をさせていて、火遊びにより子供が亡くなった。」といった悲惨な事故が後を絶ちません。マッチやライターは、日頃から子供の手の届かないところに片付けておくようにし、理解できる年齢になったら、子供に火の怖さを教えましょう。

火災・防災かるたから

㋮
マッチやライター
いたずらしない！
おこるとこわい
火の怪獣

Ⓡり
料理上手の
お母さん、
つけっ放しに
気をつけて

Ⓡる
るすにする時は
ガスの元せん
かならずチェック

Ⓡね
寝たばこは
ぜったいダメよ、
お父さん